

「感動」探しに北海道へ

最後のアドベンチャーに出発

子供たちがフェリーで北海道へ旅する海洋アドベンチャースクールの出発式は、7月28日に公民館前で行われ、村内の小学6年生87人が8月1日まで4泊5日の感動の旅に出発しました。

洋上生活と北海道の大自然の中でがんばる力、人を思いやる心を養ってもらおうと、毎年行われてきたこ

の事業。6回目の今回が最後の旅になる予定です。

出発式では、菅野村長から子供たちに「この旅に寄せるご両親と村の思いを感じ取り、素晴らしい旅にしてください」とあいさつがされた後、子供たちを代表して柗澤涼香さん（草野）から「友達をたくさん作り、楽しい旅にしたいと思います」と決意表明がされました。



▲元気に「I K A Sコール」をする子供たち

最後にボランティアリーダーの青木幸男さん（外内）の音頭でI K A Sコールを全員で元気に行った後、一行は3台のバスに分乗し、仙台港目指して出発しました。

アドベンチャースクールは8月1日に帰村しています。旅の内容は次回広報紙に掲載予定です。



「冷夏の年をみんなのがんばりで」

1、800戸のうち、1、150戸が農家であるわが村にとって、農産物の出来、不出来は大変気がかりなことです。

したがって、毎年の天候の行方は、その年1年の村の活性化にも、少なからず影響を及ぼしてきました。

冷害に悩まされてきた飯舘村も、平成5年の作況指数4という大冷害以来、10年近く冷害らしい冷害にも遭わず「冷害の村」のイメージが薄れかけてきたところでした。しかし、今年の夏はまさに平成5年を思わせるような冷夏で、農産物の生育をとっても心配しているところでは

国でも先日「低温・日照不足対

策本部」を設置し、本部長である太田豊秋農林水産副大臣がわが村の稲の状況を見に来ましたし、村でも生産者を含め各関係者にお集まりいただいて異常気象緊急連絡会議を開き、作物毎の生育の状況等の異常低温がもたらした影響を聞き、今後の対策を確認したところでは

人間の努力や行政の力ではいかんともし難い天候、それゆえ天候に大きく左右される農業の難しさがあり、各農家の皆さんが苦労されているところでありましょう。

これまで飯舘村は悪い条件を嘆くのみではなく、良いところに目を向けて頑張ってきた村です。高冷地のマイナス面である夏の冷涼や、昼夜の温度差の大きさは、野菜や花の色合い、甘み、日保ちの良さにつなげ、売ってきた訳です。大変な年になるかもしれませんが、村も出来る限りの対策を講じますので、皆さんも最善の努力をしてみてください。

平成15年8月1日

飯舘村長 菅野 典雄